

令和6年10月31日

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」 第94回（通算第173回）定例会 会議録

◆日時：令和6年10月15日（火） PM7：00～8：30
◆場所：田辺市医師会館 3F 大講堂
◆出席者： 30名 + オンライン 3名
別紙のとおり

1. 「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：00～20：00】

19：00～ 開 会

19：00～19：35 わたしのしごとを知ってください
「訪問看護ステーションほがらかの理念と今後取り組みたいこと」
報告：訪問看護ステーション ほがらか
管理者 岡田 みどり氏

19：35～20：30 意見交換・発表

20：30 閉 会

【報告内容】

○訪問看護ステーションの概要

- ・訪問看護ステーション数は増加傾向。全国で15,697か所。合わせて従事者も増加し、訪問看護師は約10万人、セラピストも含めたステーション従事者は約14.9万人に。また、1ステーション当たりの従事者も増加。結果として、訪問看護利用者も約94.5万人と増加している。
- ・和歌山県のステーション数は2024年10月現在204事業所。田辺圏域では31事業所に。
- ・訪問看護の内容の中でも多いもの「病状観察」「本人の療養指導」「リハビリテーション」。医療処置に関する看護は全体の61.6%。医療ニーズの種類が変わったような気がする。
- ・医療処置にかかる看護内容の多いもの「服薬管理・点滴等の実施」「浣腸・排便」「じょくそうの予防」「緊急時の対応」「留置カテーテルの交換・管理」。

- ・近年、在宅ケアの対象者は急増し、しかも重度化・多様化・複雑化。医療ニーズの高い利用者が増え、高齢者だけでなく、重度の障害のある小児や精神障害がある在宅生活者、認知症のひとなど多様化。人生の最終段階を在宅で過ごすことを希望する利用者も増えている。半面、一人暮らしや高齢者世帯、老々介護、認認介護など家族介護基盤の弱体化も加わり、複雑化した多問題を有する利用者が少なくない状況。昔は、家族が中心の介護だったが、最近ではサービスに依存しがち。
- ・看護とは「療養上の世話」「診療の補助」。利用者自身の治療に向けた選択をサポートする相談や、自立に向けた指導、一緒に活動する医療スタッフの調整なども大切な仕事。
- ・良質の訪問看護：「客観性と公平性からなる倫理観」「心身のフィジカルアセスメント」「生き方を選択する支援（意思決定支援）」「関係性をつくる」 →可能性を見出す
- ・訪問看護ステーションの ICT の活用や大規模化が進められている。
- ・訪問看護に重要なこと：ほうれんそう（報告・連絡・相談）、「Face to Face」・訪問看護の9割が指導・チームワーク

【意見交換】

○訪問看護について思うこと

- ・事業所間の地域でのつながりが重要
- ・訪問看護を中心に支援の形をつくるのがよい
- ・病院と在宅のつなぎ役の役割
- ・指導の役割があることを再確認できた
- ・地域格差 →緊急時の対応困難、時間や曜日が選べないという地域もある
- ・医療保険と介護保険の両方くわしい。とくに医療保険の情報をもらえると心強い
- ・在宅療養が難しい場合、施設を選ぶことが多い。でも、訪問看護が入ることによっていろんな情報を提供することができて、療養場所の選択肢が増える
- ・ステーションごとの温度差や管理者のカラーがある
- ・当地域は訪問看護ステーションが多いことで、特色がわからず選びにくい
- ・在宅療養を希望する人で、訪問看護さんの協力を得られて、本人の喜びにつながっている
- ・地域によったら、選択肢が多いのはメリット。看護師やさまざまなセラピストが選択できる
- ・最近、横のつながりが減っているような気がする。 →職能団体への参画も重要では

○訪問看護に期待すること

- ・小児や精神分野への参画
- ・看取りの場面
- ・地域の偏りの是正
- ・社会的な課題を抱える家庭が増えている
→多職種でディスカッションできる場が必要だと思う
- ・利用者主体のサービス提供
- ・利用者が選べるように、それぞれの事業所の特色の整理をしてほしい
- ・予防の視点での利用の促進
→早い時期からの介入によるメリットを伝えていくことも大切
- ・資源の少ないところでも安心して過ごせる地域づくり

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：令和6年11月19日（火） 午後7時～

場所：田辺市医師会館 3F 大講堂

内容：ヤンクケアラーについて